

# 学校心理士会神奈川支部ニュースレター

## 第 13 号



2013年6月2日発行  
発行責任者 岡田守弘  
芳川玲子  
〒259-1292  
平塚市北金目 4-1-1  
東海大学文学部心理・社会学科

### 巻頭言

### 支部の役割と学校心理士スーパーバイザー

2013年度になって新たに数名の会員を迎えました。現在、神奈川支部は年3回の研修会を開催することが主な活動になっていますが、日本学校心理士会からのお知らせ、心理師関連の就職情報、心理職の国家資格化への動向など様々な情報を伝達することも大切な役割です。最近、迅速に情報を伝達しなければならない事態が発生したり、心理師（仮称）の国家資格化創設に関する署名活動のように、会員の皆様からのご協力をお願いしなければならないことが続いて起きています。神奈川支部ホームページを常に更新することやメールによる連絡網を再度整備することなどが役員会で話されています。今後はさらに分かりやすいホームページの工夫や充実について、検討していきたいと思えます。

さて、新人と言えばやはり新人でしょうか。神奈川支部は新年度から、3名の会員が学校心理士から学校心理士スーパーバイザーに資格変更になりました。学校心理士スーパーバイザーは3年前にできた資格で、現段階では、学校心理士を10年間経験した大学の教員もしくは教育委員会や教育センターなどに勤務し、複数年の学校心理士の業務経験と研究歴を有する人が申請できます。学校心理士スーパーバイザーの具体的な役割はまだ十分に明らかになっていませんが、将来的には会員の皆さんの相談ケースの助言や新たに資格を申請する時のスーパーバイズを担当してもらえないかと考えられています。支部としては、スーパーバイザーがいることで会員の皆様が少しでも安心して日々の業務に従事できればと思っておりますので、必要な時にはどうぞ事務局までご連絡ください。

最後に、国家資格についてまだ具体的な動きが見えない中、先日の署名活動において多くの方からご協力をいただいたこと、深く御礼を申し上げます。皆様の思いをしっかりと受け止め、より完全な資格になるように、これからも努力したいと思っております。

神奈川支部長 岡田 守弘

### 2013年度の主な予定

#### ●2013年度神奈川支部第15回総会・第33回研修会

日時 6月2日(日)

場所 神奈川県立かながわ労働プラザ

第15回総会 14:00～14:30(受付13:30～)

第33回研修会 14:45～16:45 \*Aポイント研修

「発達障害児の心理・生理・病理」

講師 藤井 靖史 先生 (帝京大学教職大学院教授、帝京大学医学部小児科医)

●第34回研修会

日時 10月27日(日)

場所 神奈川県立かながわ労働プラザ

「WISC検査の読み取り方 ―教育にどのように繋げるか―」

講師 大草 正信 先生 (神奈川県スクールカウンセラー、スーパーバイザー)

●第35回研修会 \*湘南・横須賀地区会主催

日時 2014年2月23日(日)

場所 ウィリング横浜

「特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援と対応」

講師 柘植 雅義 先生 (国立特別支援教育総合研究所 教育情報部長／上席総括研究員)



## 第31回研修会報告

日時 2012年10月14日

場所 ウィリング横浜

### 「通常の学級における発達障害児に対する感覚とからだからのアプローチ ～作業療法士の立場から～」

講師 療育塾：ドリームタイム 木村 順 先生

作業療法士の方は、特別支援学校(養護学校)に勤務している私にとっては、子ども達が療育機関や訓練会などでお世話になるとか、最近では県立養護学校の4校に1人程度自立活動教員として配置されているなどのことから、知らないわけではありませんでした。しかし、この研修会でアクティブな木村先生のお話や、実地的な動きなどから、これまで腑に落ちなかったことがすっきりした感がありました。

原始的な感覚である前庭覚や固有覚は、体内感覚の部分でほとんど意識しないで使っています。目を閉じて座っている時に身体を押されると、身体は傾いても首は重力に対して垂直であるように傾きません。また、目を閉じて、片手に1冊の本、或いは5冊の本を乗せられたとき、見ていなくとも載せられたのは1冊なのか5冊なのかは気が付きます。前者の例は、自分の身体が揺れているのか、傾いているのかなど位置を把握する前庭覚(平衡感覚)。後者の例は、自分の骨や筋肉がどう動いているのか、どう連動してどこに力を入れているのかなどを把握する固有覚(深部感覚)。これらと身体を表層を被いセンサーのように働く触覚(表在感覚)。この3つは感覚統合における重要な感覚だということを再認識しました。

研修の後半では、TV番組の紹介があり、姿勢の悪い子がトランポリンや大揺らしの遊びをした後、線上歩きが上達している様子を見せていただきました。その時に、子ども本人が「わーい、楽しい」と感じられる状態まで動くことが大事である、ということが印象的でした。

(文責：奥村美由)

## 第 3 2 回研修会報告

日時 2013 年 2 月 24 日 (日)

場所 T K P 横浜駅西口カンファレンスセンター

### 「スクールソーシャルワーカーの活動と役割」

—子どもたちの育ちを支援するための協働を目指して—

講師 神奈川県教育委員会スクールソーシャルワーカー スーパーバイザー

鳥海佳奈枝 先生

#### 【研修の概要】

#### (1) スクールソーシャルワーカー (以下、SSWと表記する) の活動と役割

SSWによる臨床活動は、多様化する子どもの課題について、学校で社会福祉の視点に立った支援を行うことである。それは、子どもの外的な関係性に着目し、環境を改善していくことによって問題を解決する新たなサポートシステムといえる。具体的な活動は多岐にわたるが、外部関係機関とのネットワーク構築や連携・調整を核として、子ども・保護者・教職員等への支援体制の整備に当たる。SSW事業の展開により、関係機関との連携による支援が充実するとともに、学校における援助資源の幅が広がり、学校がチーム・組織で子どもの問題を支援する体制づくりが進展した。一方、学校においては、一人の子どもに関する情報が未整理のままになっていることが多いので、支援に有効な情報を整理するためのシステムづくりが課題である。併せて、SSWの専門性についての理解を学校や外部の関係専門機関において深めるための手立てが期待される。

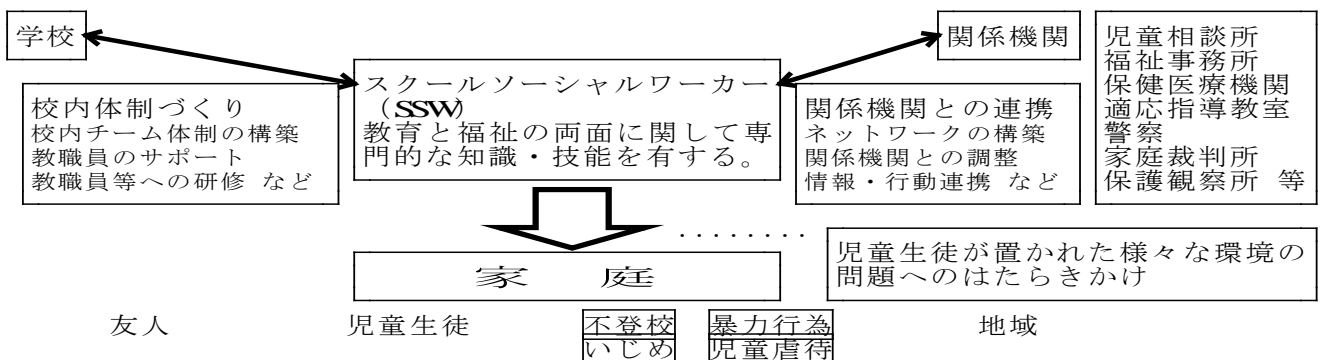


図 スクールソーシャルワーカーの活動と役割

#### (2) SSWが効果的に関わって課題が改善された事例

母親の精神疾患が背景にある子どもへのネグレクトでは、SSWを交えたケース会議を経て、子どもの課題と母親の課題をそれぞれ整理し、必要な支援についてのアセスメントを行った。さらに支援に係る長期目標と短期目標を設定し、外部の関係専門機関との連絡・調整、制度活用について、校内支援の整備を行った。具体的には、SSWが福祉保健センターや民生委員、役所の関係部署による子どもと保護者への支援の橋渡しを行うとともに、教育委員会が有する支援制度の紹介・活用や学校の教育的役割についてのコンサルテーションにより課題が改善された。この事例をはじめ、SSWのコンサルテーションにより、多くの機関との連携、制度の活用を図る事例が多数報告され、実りある研修であった。

## 本の紹介



### 「子どもの障害をどう受容するか ― 家族支援と援助者の役割 ―」

中田洋二郎 著 大月書店 1365 円

「受容する」ということは簡単なことではなく、成長の節目ごとに新たな課題を家族に突き付けてくる。慢性的悲哀は、表裏、別の色のリボンが螺旋状になって見えるように、何か事あるごとに表になったり裏になったりして見えてくる。家族の置かれている状況や心情理解に多大なヒントをくれる一冊。

### 「学校行事の学校心理学」

樽木靖夫 著 ナカニシヤ出版 5000 円 (税別)

生徒がともに学校行事をつくることを通して、学級の対人関係はダイナミックに変化する。その教育的な意味・効果を検討し、集団体験を活用した生徒の発達とそれを支える教師の援助的介入・学級づくりを論じる。

## お知らせ

### 心理師（仮）国家資格化に関する動向について

平成 25 年 4 月 1 日に「一般社団法人日本心理研修センター」が設立されました。このセンターは心理職の国家資格化を視野に入れ、これからの心理職の資質向上を中心課題として運営される機関です。その事業は、(1)心理支援に携わる者の研修事業、(2)心理職に係わる試験及び登録等に関する事業、(3)その他この法人の目的を達成するために必要な事業、です。

センター設立に関わったのは、臨床心理職国家資格推進連絡協議会、医療心理師国家資格制度推進協議会、日本心理学諸学会連合の三団体です。心理職（仮）の国家資格化に関する情報については、次のホームページから得られます(但し、それぞれのホームページは整備中です)。

①「三団体会談」、②「日本心理研修センター」です。

### 日本学校心理士会 2013 年度大会

□期日：2013 年 8 月 10 日（土）・11 日（日）

□会場：九州産業大学（福岡市東区松香台 2-3-1）

□大会テーマ：学校心理士のさらなる活躍の場を考える

□基調講演：

「学校心理士の NEXT 50 ～学校教育と心理学の統合から融合への 3 のステップ～」

「子どもと学校の危機への対応 ～学校心理士への期待～」

○詳しくは大会ホームページをご覧ください。多くの方の参加をお願いします。

<http://gakkoushinrishi.com/>



【編集後記】心理職の国家資格化の動きが進んでいきます。この動きは資質向上の必要を捉えてのことでもあるようです。学校においても、いじめ、体罰、不登校、非行、虐待など心理面を考慮しつつの環境調整や関係機関との連携が増えています。そう簡単にはほどけない問題が学校現場は次々と起こってきます。ほどけないまでも、向き合える力を持ち続けたい。子どもたちに関わる人が元気でいたいといけません。繋がらぬことで力が湧いてきます。このニューズレターは会員同士を繋ぐレターです。ご意見ご感想をお待ちしています。 mail: [ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp](mailto:ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp) (編集部)